

矢面に立って仕事を

黒見 友紀子 (H28FL)

創立1929(昭和4)年の東洋建設株式会社に勤めています。大学時代に何げなく見た求人票がきっかけで、会社説明会を受け入社を決めました。入社後4年間はひたすら現場の管理業務を行い、早いもので5年目を迎えます。東洋建設といえば、海上土木が強い“マリコン”として有名ですが、私が従事しているのは建築の施工管理職です。

すでに5現場を経験していますが、老人ホーム、マンション、ポート・カヌーの競技場、商業複合施設と多種多様な建設物に携わることができています。中でも、ポート・カヌーの競技場「海の森水上競技場」の施工は一生に一度あるかないかの経験で、誰もが経験できるものではないので、非常に貴重な経験だったと思います。現場管理業務としては、安全管理業務、雑務を熟し、ようやく今、仮設の計画や各工種の担当となり現場を動かす立場となりました。下には3人もの先輩が付いています。日々、上司には「矢面に立ちなさい」と言われてきましたが、まさに今「矢面に立って」仕事をしています。責任のある重い仕事を担うようになり、責任感が増す今日この頃です。

世の中では、「働き方改革」が叫ばれ、現場業務従事者も交代しながらの週休2日を目指し、ノー残業デーや時差出勤を取り入れるようになりました。空いた時間には、先輩とのコミュニケーションを図るために、居酒屋でお酒を交わしたり、テーマパークに遊びに行ったり、お誕生日会をしたり、短期間で変わる現場ではありますが、現場ごとにたくさんの思い出を作ることができています。大学時代には考えられないくらい社会的になったと思います。ご指導いただいた上司並びに一緒に仕事をしてくれた先輩に唯々感謝の日々です。

在宅時間を有意義に

岩田 真興 (H17T)

豪雨災害や新型コロナウイルスの被害に遭われた方々に、心よりお見舞い申し上げます。

皆様いかがお過ごしでしょうか？今は新型コロナウイルスの第2波が本格化してきた7月下旬で、やっと少し外出しやすくなってきたのに、また自粛モードに逆戻りといった状況です。そのため休日は家に引きこもり、封印されていた「Wii」を引っ張り出してきて家族で遊んだり、「Amazon Prime」の映画やアニメを鑑賞したりして楽しんでおります。

仕事においては、在宅でする機会もあり、存外不便なく業務ができるものだと実感しました。自分が勤めている会社や世間も同様の認識をしているように感じております。サービス業や製造業などリモートワークが難しい業種もありますが、「仕事は会社に出社するべきだ」「そもそも自宅でするべきだ」などの考えが崩れ、時間や場所にとらわれない新しい働き方に向けて1歩踏み出すことができたのは、少ないメリットの一つだと思います。いつか空気が景色が綺麗な高原からリモートワークを試みたいです(笑)。

最後になりますが、皆様のご健勝とご自愛をお祈り申し上げます。

現場の状況を常に確認します



子どもと遊ぶ時間が増えました



OB・OG 掲示板

論文受賞と卒論の手伝い

四ツ谷 昂亮 (H29KK)

卒業してから早くも1年半が過ぎました。入社1年目は社会人としてのマナーを覚えたり、初めて行う業務を覚えたりとバタバタしていました。そのような忙しい中でも、課の先輩や同僚に恵まれて仕事にも慣れ、充実した毎日を送っています。

卒業後の印象深いできごととしては、情報処理学会東海支部学生論文奨励賞を受賞したこと、後輩たちの卒論・修論作成を手伝ったことです。学生論文奨励賞は、在学中に作成した論文を英文校正に出したのち、指導教員の梶克彦先生や後輩たちに手伝ってもらいながら修正を進めていったものが受賞できたのです。この受賞は梶先生をはじめとした多くの方々のおかげであってこそのものであり、大変感謝しています。

また、後輩たちの卒論・修論作成の手伝いについては、私が休日だったこともあり、論文提出日直前の夜からお邪魔させていただきました(笑)。私が卒論・修論を作成していたときよりも同級生同士や先輩後輩間のコミュニケーションが盛んに行われており、お互いの研究内容について多くの意見を交わしながら論文を作成していたように感じました。後輩たちの成長が感じられてとてもうれしく思いました。

人とのつながりが9割

宇佐見 恭浩 (H13C)

1997年から2002年まで在学し、寝食を忘れて「ウレタン」という素材を学び、態度だけは准教授クラスになり、日本初のウレタンフォーム生産に成功したイノアックコーポレーションに就職。開発分野に携わり、多くの新製品や新技術が生まれる瞬間に立ち会いました。そんな私の勤める会社は、テレビ東京『知られざるガリバー』で先日取り上げていただきました。

2014年、神奈川の技術研究所から名古屋に戻った私は、当時応用化学科山田英介教授の副学長就任記念行事を企画していた応化会幹事に迎えられ、企業の枠を超え、一緒に案を練ったり、居酒屋で歓談したりしました(どちらかと言えば後者が圧倒的に多かったのですが)。結局、上海駐在が決まり、行事には参画できず居酒屋交流のみになりましたが、幹事の方々との交流は今も続いていて、良い機会をいただきました。

上海駐在時には、在学中に共同研究し学会発表をした蘇州大学の戴礼興教授と再会もできました。言葉や文化の壁はあれど、研究を重ね、プレゼン資料を作成し発表に至る過程で多くの交流ができ、今でも良好な関係を築いています。

現在、日本に戻っていますが、コロナ禍が落ち着いたら再び海外へと企んでいます。全力で世界を駆けまわります！

学生論文奨励賞をいただきました



上海で戴教授と再会しました



技術力と人間力

山本 竜史 (62D)

卒業して33年目を迎え、建設コンサルタントとして高速道路事業の設計・現場管理に従事してきましたが、老朽化問題や大規模自然災害時の機能維持、渋滞緩和や逆走防止対策などコンサル業務も求められるものがどんどん変わってきています。土木は常にニーズや技術が変化し、「学ぶ」ことが多く、刺激が豊富で、楽しく仕事に向かっています。

株式会社ハイウェイ・エンジニアリングでは、昨年「働き方改革」の一つとして、仕事に直接必要なスキル以外の学びを支援・奨励する取り組みを行いました。社を挙げて「趣味の充実」「ジムでの健康増進」「異業種交流」など様々なことを各社員が創意工夫して行うのです。私は「ウクレレ演奏」に挑戦しました。腕前は今一つですが、コロナによるテレワークで通勤時間の削減などもあって練習時間も増え、気分転換にもなったりリフレッシュでき、楽しく継続中です。

「仕事」を頑張るためには「人間力」を養うことが大切だと考えて、技術磨きも大切ですが、人間磨きも大切だと教えてくれる会社に感謝しています。

今、社会環境も大きく変化しようとしています。「昔は～」とばかり言って昭和のオジサンと言われたいや、さらに磨きをかけて「ONもOFFも」楽しく生き生きと頑張っていきたいと思っています。

私の過去と将来

中根 若富 (54M)

40年ほど前、大学院修士1年度末の春、隣の流体研究室の神元五郎教授との夕食の際に教授から「どの分野に就職したいか」と問われました。「医療機器の仕事がしたい」と答えたら、教授の友人が経営する医療機器製造の日機装株式会社を紹介されました。会社を訪問すると内定となり、1年後に入社。静岡の医療機器工場内の研究所に配属され、人工肺、人口臓腑等の開発に参加しました。

6ヶ月後に炭素繊維開発と炭素繊維製品の開拓を行う独立部署が発足配属されました。その後、未知材料の炭素繊維を使った国内及び海外向け製品の開拓と顧客交渉・見積もり、製品設計、製造及び検査指導、顧客サポート等を一貫して行いました。これらの業務には大学で得た知識が非常に役立ちました。

私は飽きやすい性格なので、個人の3年毎の目標を決めて毎年の実行計画を立て実施してきました。夢のある長期・中期・短期ビジョン(目標と遂行計画)を企画し実施することでポジティブな人生が楽しめます。今日の様な環境の変動期は、新ビジネスのチャンスでもあります。今、ホームページ、データサーバーの確保、Web会議主催等の準備を進めており、新分野の商品開拓などを目論んでいます。

ウクレレで気分転換しています



自宅での時間も大切にしています



イレギュラーな中で社会人に

清水 甚吾 (R2MM)

出席する予定だった卒業式は新型コロナウイルスの影響で規模を縮小して開催されました。学生最後の春休みは卒業旅行も行けずに終わりを迎え、4月から新社会人になりました。4年間学生として通っていた大学に職員として通うこととなります。緊急事態宣言が発令される中、新しく始まった社会人生活はイレギュラーの連続で、毎日があっという間に過ぎてしまいます。キャリアセンターに来る学生への対応に苦戦しながらも、これから社会に出ていく学生たちの見本となるような魅力ある大人になれるように、様々なことに挑戦し、たくさんのごことを吸収していきたいと思っています。

最近では趣味としてキャンプを始めました。初心者なので準備や片付けに時間はかかりますが、回を重ねるごとにできることや知識が増えワクワクします。オンとオフをしっかりと区別して仕事とプライベート、どちらも充実させていきたいと思っています。

高度成長期を支えた男たちの旅路

電気学科45卒有志代表

東芝のハードディスク開発で業績を残した山崎好美と東芝変圧器ブラジル工場建設に携わった水野政光の案内でJR川崎駅から東芝未来科学館へ。創業者田中久重考案の茶運び人形の実演解説や最先端技術の展示に触れ、素晴らしい創業の理念と歴史を誇る東芝ゆえに同窓の2人も業績を残せたのだと思いました。

東京湾アクアラインを通り房総半島最南端の野島崎灯台へは、自動車部出身の平松秀和(現愛工大講師)が運転し、更谷光男(ナンカイの前経営者)が助手を務め、千葉県在住の瀬口康法(田中貴金属工業の元営業)がガイドをするバスで。展望台へ続く101段のらせん階段を全員軽々と登り切り、70歳過ぎてますます元気です。

休暇村館山での宴会は、世取山正(足利工業高校の元教師)はじめ、そうそうたるメンバーが盛り上げます。西川幸一郎(姫野組で国内100万ボルト送電の業績により社長秘書も務めた)や美頭甲子雄(三菱電機退職後は愛工大の就職担当に)、現役の伊藤正明(AIT三重BBの会幹事)、山田義夫(日東工業退職後は同OB会会長に)、伊藤治彦(ソフト会社起業)、河辺英二(トヨタのハイブリッド車開発後、多摩川精機の常務取締役)、川原一晃(日本NCRで情報処理の最先端技術に貢献)、井川克己(NTTでは通信技術分野で活躍)と、いずれも未来を語る楽しい話題が尽きることのない面々です。

翌日は鯛の浦や海中展望塔を巡り、川崎駅へ。駆け付けた河合雅利(芸術家で陶芸の腕は一流)より手焼きのぐい呑みが配られ、良き思い出の品となりました。「人生の幸せは懐かしさの中にある」作家大佛次郎の言葉が心に浮かび幸せを満喫した2日間でした。

※学部学年を問わず、旅へ参加ご希望の方は

平松秀和(090-2266-5880)まで連絡ください。

学友と並んで前列一番右が私です



ここは東京湾に浮かぶ海ほたるです

